

(出来形管理関係)

様式 1

年度		工事	
出来形管理図表			
品質管理図表			
種 目			
事業所		支所	受注会社名

注) 1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴り
とすることができる。
2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。

出来形管理図表

工 事 名 _____ 受注会社名 _____

工 種 名	測 定 者
-------	-------

管理基準値 A		規格値 B		測 定 位
+	-	+	-	

[illegible]

様式 2-2

度 数 表

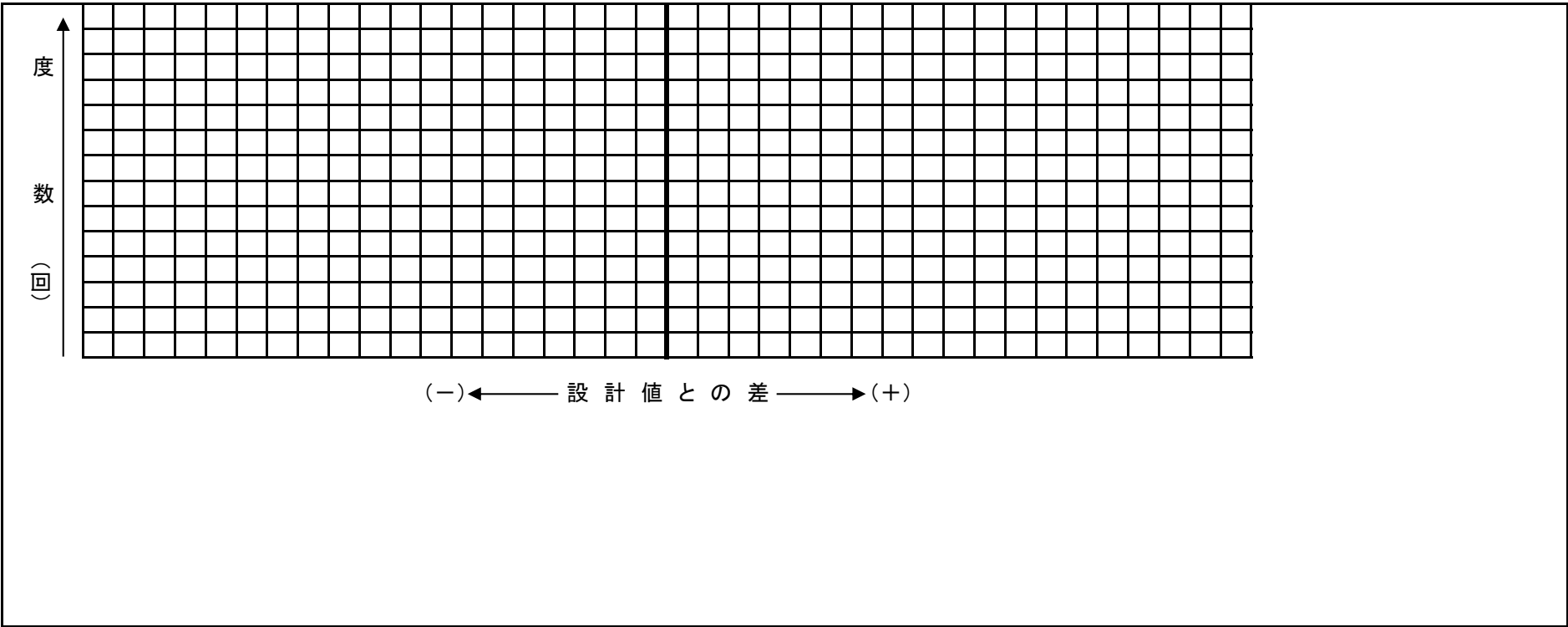
工 事 名

工 種 名

年 月 日 現 在

受注会社名

測 定 者



注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。

測定結果一覽表

工事名

受注会社名

工 種 名

測定者

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

[illegible][illegible]

記入事項

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、 $E > 0$ の場合は+側の値を、 $E \leq 0$ の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の片方、若しくは両方にもない場合は、その符号側はF=「-」とする。

鋼管溶接測定結果一覽表

工 事 名

受注会社名

工 種 名

測定者 _____

[illegible]

鋼管溶接、塗覆装点検表

工 事 名

受注会社名

測定者

[illegible]

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

工事名

受注会社名

測定者 _____

[illegible]

注 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所を平均とする。

2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。

3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。

4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。

5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

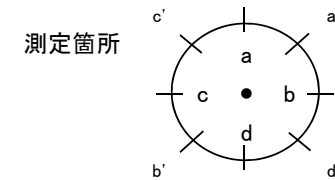
＜記載例＞

測定位置	測定値				
	a	b	c	d	平均
NO.〇〇受 (受口側データ記載)					
" 挿 (挿口側データ記載)					

(参考)

標線による計測 ジョイント間隔 = 受け口長₂ - (標線長_h - 測定長_{x₁})

標線によらない計測 ジョイント間隔＝受け口長 l_2 －(管有効長 L －測定長 x_2)



埋設とう性管たわみ量管理表

工 事 名

受注会社名

管種(長さ)

測 定 者

測 定 位 置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D _U mm	たわ み率 %	D _h mm	たわ み率 %	D _U mm	たわ み率 %	D _h mm	たわ み率 %	D _U mm	たわ み率 %	D _h mm	たわ み率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D_U + t)] \text{ 又は } [2R - (D_h + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。

2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。

3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 3-6

鉄筋組立検査結果一覧表

工 事 名 : _____

受注会社名 : _____

工 種 名 : _____

[illegible]

測定箇所：（設計上の位置及び名称）

測定者 _____

記入事項

1. かぶりの許容誤差は $\pm \phi$ かつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は $\pm \phi$ とする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

様式 4

杭打ち成績表

工 事 名 : _____

受注会社名 : _____

工 種 名 : _____

測 定 者 : _____

杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測 定 時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名: _____

設計支持力: _____

(品質管理関係)

様式 5-1

 \bar{X} - R 管 理 デ ー タ シ ー ト

工 事 名	受注会社名
工 種 名 (名 称)	測 定 者
項目名(品質特性)	作 成 者

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位
	上 限	下 限	
	+	-	

日 標 準 量	
資 料	大 き さ
	間 隔
作 業 機 械 名	

月 日	測 点	組番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範 圍 R			
			X_1	X_2	X_3						
		1									
		2									
		3									
		4							平 均	\bar{X}	\bar{R}
		5							累 計		
小計									小 計		
		6									
		7									
		8									
		9							平 均	\bar{X}	\bar{R}
		10							累 計		
小計									小 計		
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19							平 均	\bar{X}	\bar{R}
		20							累 計		
小計									小 計		

(注)

1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記
事

記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d ₂	A ₂	D ₄
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

X - R 管理データシート

工 事 名 _____ 受注会社名 _____
 工 種 名 (名 称) _____ 測 定 者 _____
 項目名 (品質特性) _____ 作 成 者 _____

設 計 基準値 A	規格値 限 界		測 定 単 位
	上限	下限	
	+	-	

日 標 準 量	
資 料	大 き さ
	間 隔
作 業 機 械 名	

月 日	測 点	組番 の号	測 定 値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R			
			X_1	X_2	X_3						
									平 均	\bar{X}	R
									累 計		
小計									小 計		

特 記 _____

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d_2	A_2	D_4
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

\bar{X} - R 管理図

設計基準値		工 事 名			事業所名		
名称		日 標 準 量			期 間	自	年 月 日
品質特性		規格値限界	上限値			至	年 月 日
測定単位			下限値		受注会社名		
測定方法		試 料	大きさ		現場代理人		
作業機械名			間隔		測定者		

\bar{X}																								
R																								
組 の 番 号																								
記 事																								

注) 1.管理図は、別紙 \bar{X} -R管理データシートから記入する。
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定 自		年 月 日	
品質・特性		事業所名		期間 至		年 月 日	
測定単位		日標準量		受注会社名			
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人			
	下限値		間隔	測定者			
設計基準値		作業機械名		作成者			

月日	試験 番号	測定 値				計 Σ	平 均 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 囲 Rm	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
		a	b	c	d						X	Rs	Rm
	1									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	2												
	3												
	4												
	5												
	小計												
	6									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	7												
	8												
	小計												
	9									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	10												
	11												
	12												
	13												
	小計												
	14									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	15												
	16												
	17												
	18												
	19												
	20												
	小計												
記 事									n	d ₂	D ₄	E ₂	
									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46	
									5	2.33	2.11	1.29	

注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。

2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。

----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm 管理データシートの2

月日	試験 番号	測 定 値 計					平 均 値 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 の 範 囲 Rm																				
		a	b	c	d	Σ																							
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										平均 $\bar{X} =$ $\bar{R}_s =$ $\bar{R}_m =$ 累計 小計																			
	小計																												
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										平均 $\bar{X} =$ $\bar{R}_s =$ $\bar{R}_m =$ 累計 小計																			
	小計																												
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										平均 $\bar{X} =$ $\bar{R}_s =$ $\bar{R}_m =$ 累計 小計																			
	小計																												
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										平均 $\bar{X} =$ $\bar{R}_s =$ $\bar{R}_m =$ 累計 小計																			
	小計																												
記 事	<table border="1"> <tr> <td>n</td> <td>d_{31}</td> <td>D_4</td> <td>E_3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1.13</td> <td>3.27</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1.69</td> <td>2.57</td> <td>1.77</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2.06</td> <td>2.28</td> <td>1.46</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2.33</td> <td>2.11</td> <td>1.29</td> </tr> </table>									n	d_{31}	D_4	E_3	2	1.13	3.27	2.66	3	1.69	2.57	1.77	4	2.06	2.28	1.46	5	2.33	2.11	1.29
n	d_{31}	D_4	E_3																										
2	1.13	3.27	2.66																										
3	1.69	2.57	1.77																										
4	2.06	2.28	1.46																										
5	2.33	2.11	1.29																										

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 ----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 7

X - Rs - Rm 管理図

設 計 基 準 値		工 事 名			事 業 所 名		
名 称		日 標 準 量			期 間	自	年 月 日
品 質 特 性		規 格 値 限 界	上限値			至	年 月 日
測 定 単 位			下限値		受 注 会 社 名		
測 定 方 法		試 料	大きさ		現 場 代 理 人		
作 業 機 械 名			間隔		測 定 者		

X																																								
Rs																																								
Rm																																								
組 の 番 号																																								
記 事																																								

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。